

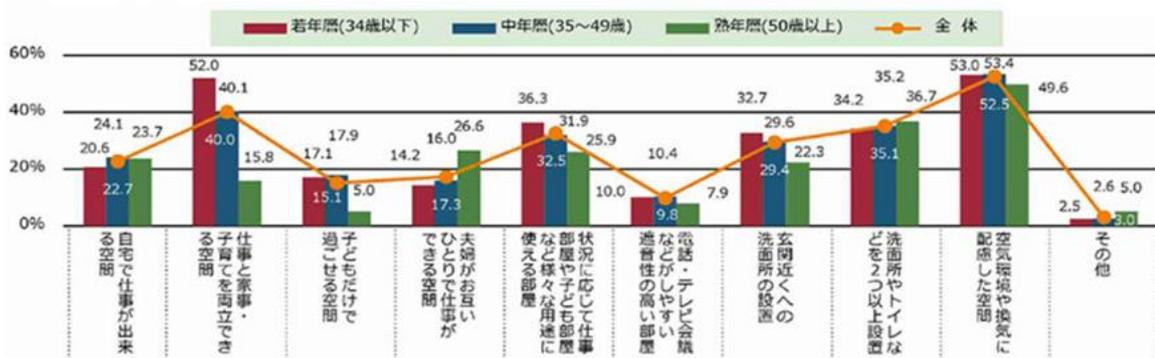
## 家づくりの関心事は？

### ◆住宅展示場における住宅の関心事、トップは「空気環境と換気への配慮」

住宅生産振興団と住宅展示場協議会が毎年実施している「総合住宅展示場来場者アンケート2021調査報告書」（調査時期21年8月～10月、有効回収数727票）が22年1月末に発表された。

まず「家づくりの際、検討したい空間や設備」を見ると、検討したい比率が最も高かったのは「空気環境や換気に配慮した空間」の52.5%で、どの年齢層でも高かった。また、「仕事と家事・子育てを両立できる空間」は、若年層（34歳以下）と、在宅勤務・テレワーク実施率が高い層（通勤0割～3割）で高かった。

家づくりの際、検討したい空間や設備（年齢別）



出典／住宅生産振興財団・住宅展示場協議会「総合住宅展示場来場者アンケート2021調査報告書」

### ◆ZEHの認知度は36%、導入意向を促すにはわかりやすい情報発信が必要

一方、住宅メーカー各社が22年に力を入れているといわれるZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）についてはどうか。ZEHの認知度は35.5%、「名前は知っている」も含めると56.5%と過半数を占める。ZEHの住宅計画への導入意向については、「既に導入・採用を進めている」が3.9%、「導入・採用を検討」が6.2%で、「導入・採用したい」が18.7%だった。年代別では導入・採用に積極的なのは中年層（35～49歳）で、ZEHを認知している人ほどZEHの導入意向は高い。政府は第6次エネルギー基本計画で「2030年以降新築される住宅についてZEH基準の水準の省エネルギー性能の確保」を目標に掲げているが、新築検討者に対してZEHのメリットをわかりやすく伝えていく必要があるだろう。 【秋元真理子】